



## 東京ガス株式会社 2008年度第1四半期決算説明会

2008年7月29日

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場、原油価格の変動ならびに天候の異変等があります。

本日は2009年3月期第一四半期決算実績をご報告するとともに、最近の原油価格動向を反映した現時点での中間期・通期見通しの下方修正をご報告いたします。

見通しにつきましては、まだ四分の一を終えたばかりであり、原油価格につきましても先行きまったく不透明であります。年初に置きました前提95ドル／バレルが最近の実勢価格と乖離しておりますので、最新の7月の日本入着平均原油価格見通し135ドル／バレルで今後も推移するという仮定の下に、売上高と原材料費を算定し、当初の見通しに置き換えたものでございます。

結果といたしましては経常・当期両利益とも赤字となる数字であります。原油価格と為替動向を慎重に見極めたうえで、中間期決算時には、改めて収支見通しをご報告したいと考えております。

なお、決算短信におきまして第一四半期実績・中間期見通しの対前年増減率を記載しておりませんが、今回は金商法改正に伴います初めての四半期決算であるため、前年度の簡便な四半期決算との増減率に関して正確を期すため、短信記載要領に従い無記入としたものです。

## 08年度第1四半期決算のポイント

### ■ 対前第1四半期利益比較 <増収減益>

#### 経常利益

- ・ スライドタイムラグ未回収大幅増 (▲147億円 : ▲31⇒▲178)
- ・ 退職手当数理計算上の差異費用増 (▲19億円 : ▲32⇒▲51)
- ・ 料金改定影響 (▲16億円)

#### 特別損益

- ・ リース会計基準影響 (+78億円)

(億円未満切捨て)

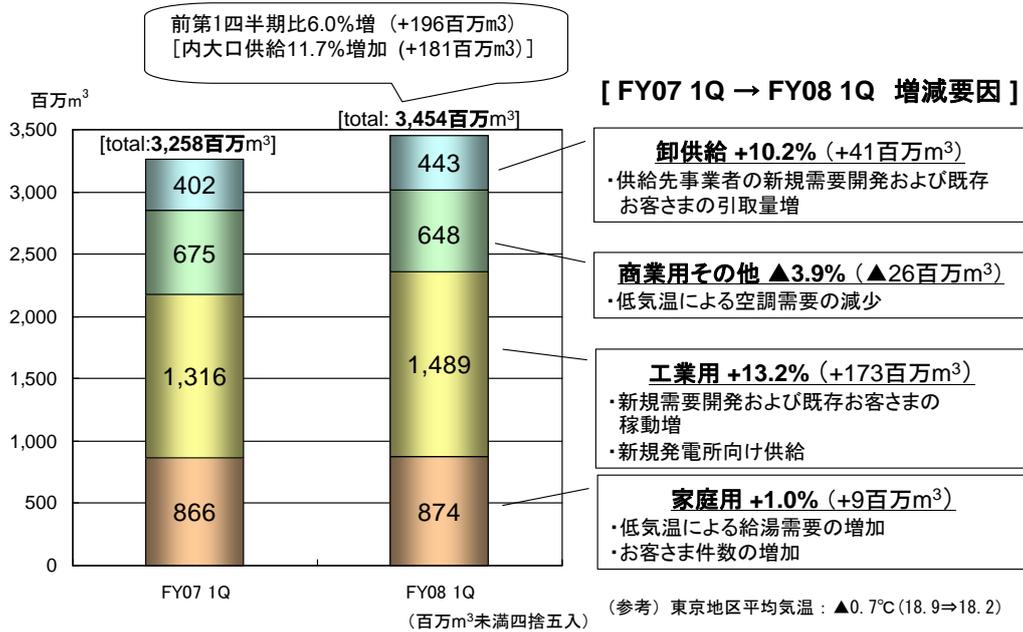
	FY08 1Q	FY07 1Q	増減
売上高	3,771	3,312	+459(+13.9%)
営業利益	174	361	▲187(▲51.6%)
経常利益	160	362	▲202(▲55.8%)
第1四半期純利益	164	230	▲66(▲28.7%)
原油価格(\$/bbl)	109.69	64.68	+45.01
為替(円/US\$)	104.56	120.82	▲16.26
気温(°C)	18.2	18.9	▲0.7

それでは、本第1四半期決算のポイントについてご説明いたします。  
2ページをご覧ください。

本第1四半期の業績は表のとおり、対前年同期で増収減益となっております。売上高は13.9%増の3,771億円、営業利益は51.6%減の174億円、経常利益は55.8%減の160億円、四半期純利益は28.7%減の164億円となりました。増収の要因はスライドによる売り上げ単価の上昇、減収の要因につきましてはスライドタイムラグの未回収額の増加等、2ページに主なものをまとめてございます。

なお、リース会計基準変更による特別利益は、リース会社2社のリース資産の過年度の定率法による減価償却費を、今回の変更で収入ベースに合わせて見直したことにより、過去にさかのぼって過償却分を特別利益に計上したものです。

## ガス販売量実績(連結)



ガス販売量については、3ページの通り、対前年同期比6.0%増の34億54百万 m<sup>3</sup>となりました。これは、都市ガスの他燃料に対する競合力を背景に、工業用や卸供給を中心とした既存・新規のお客さまが当社のガスを順調にご利用いただいたことや、新規発電所向け供給開始による需要増により、それぞれ13.2%、10.2%と高い伸び率になったことが主な要因であります。

## 2008年度決算見通し(通期、対前年・計画)

(億円未満切捨て)

	FY08見通し (7/29時点)	FY07実績	FY08計画 (4/25時点)	増減	
				対前年	対計画
売上高	18,020	14,874	17,120	+3,146(+21.1%)	+900(+5.3%)
営業利益	-170	700	750	-870(-)	-920(-)
経常利益	-230	668	680	-898(-)	-910(-)
当期純利益	-70	424	500	-494(-)	-570(-)
原油価格(\$/bbl)※	128.78	78.71	95.00	+50.07	+33.78
為替(円/US\$)	104.89	114.44	105.00	▲9.55	▲0.11

※7月以降を135\$/bblとする

### 【ガス販売量 用途別】

(単位:百万m<sup>3</sup>)

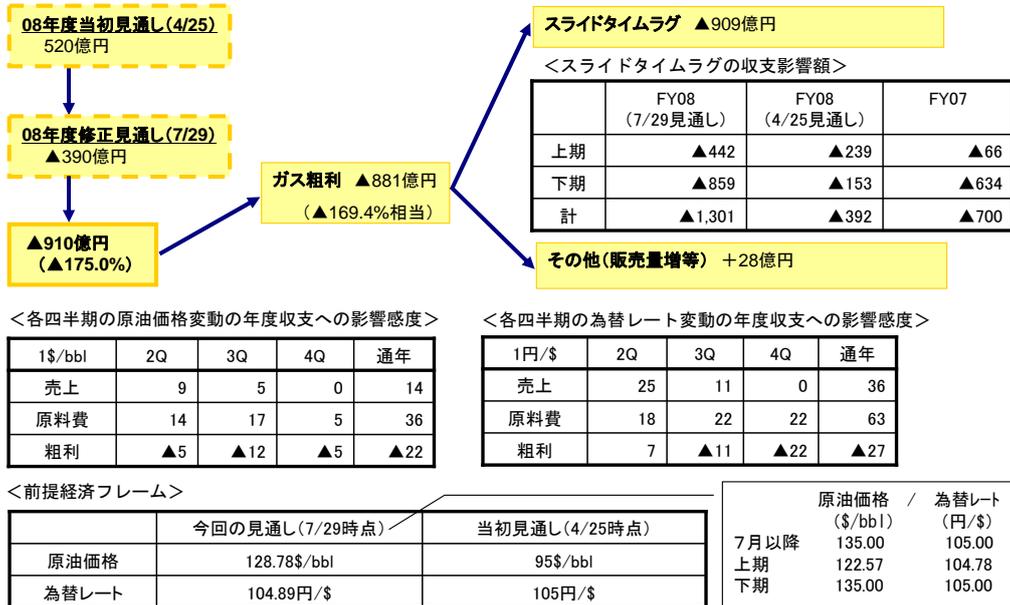
	FY08見通し (7/29時点)	FY07実績	FY08計画 (4/25時点)	増減	
				対前年	対計画
家庭用	3,548	3,529	3,520	+18(+0.5%)	+27(+0.8%)
工業用	6,087	5,732	6,030	+355(+6.2%)	+57(+1.0%)
商業用他	3,036	3,126	3,055	▲89(▲2.9%)	▲19(▲0.6%)
卸供給	1,856	1,828	1,855	+27(+1.5%)	+1(0.0%)
合計	14,527	14,215	14,460	+311(+2.2%)	+67(0.5%)

4

・4ページでは、2008年度見通しについて、4月25日に発表した当初見通しと比較してご説明いたします。まずは収支見通しについてですが、売上高は900億円、5.3%増の18,020億円、営業利益は、ガス粗利の減少により、920億円減の▲170億円、経常利益は910億円減の▲230億円、当期純利益は570億円減の▲70億円を見込んでおります。

・ガス販売量につきましては、当初計画と比較し、0.5%増の145億27百万m<sup>3</sup>となる見通しで、ほぼ当初計画どおりの見込みです。

## 単体 08年度経常利益 対当初見通し増減要因分析



・今回収支見通しの変更の大部分は前提原油価格の高騰に伴う、スライドタイムラグ未回収の増加ですが、5ページで単体経常利益の増減要因についてご説明いたします。

・今回の見通しでは、直近のJCC見通しを反映し、08年7月から09年3月までの原油価格の見通しを1バレル当たり135ドル、通期の見通しを128.78ドルに変更しました。為替レートにつきましては変更していません。その結果、スライドタイムラグ影響による未回収の増加が909億円となり、販売量増等により28億円改善したものの、ガス粗利は881億円減少しております。今後の原油価格動向は不透明ではありますが、原油価格・為替レートが今回の前提フレームから変動した場合の、第2四半期以降の各四半期毎の年度収支への影響額はご覧の通りです。合計では1ドル22億円、1円27億円の感度となります。

・以上が決算の概要ならびに2008年度の見通しでございますが、セグメント別の増減要因についても概要を掲載しておりますので、後ほどご覧ください。

## (参考)セグメント別営業利益増減要因

(億円未満切捨て)

	FY08 1Q 実績	FY07 1Q 実績	FY08 1Q実績 対 FY07 1Q実績	FY08 今回見通し (7/29)	FY08 当初見通し (4/25)	FY08 今回見通し 対 FY08 当初見通し
ガス	291	467	▲176 ( ▲37.5% )	340	1,227	▲887 ( ▲72.3% )
ガス器具	7	10	▲3 ( ▲30.1% )	17	16	+1 ( +6.3% )
受注工事	▲5	▲7	+2 ( - )	▲5	▲5	- ( - )
不動産賃貸	25	22	+3 ( +15.3% )	74	69	+5 ( +7.2% )
その他	14	13	+1 ( 11.5% )	76	84	▲8 ( ▲9.5% )
合計	333	505	▲172 ( ▲34.0% )	502	1,391	▲889 ( ▲63.9% )
内部取引 相殺後	174	361	▲187 ( ▲51.6% )	▲170	750	▲920 ( ▲122.7% )